

奥阿賀・緑の油田プロジェクト連携体(新潟県阿賀町)-巴山組・本間造園

現状と課題(提案の背景)

- ・阿賀町は福島県と接する豪雪中山間地で自然が豊か。しかし超高齢化率41.1%(H20) ⇒ 地域の担い手不足、山林や耕作地放棄地が問題
- ・地域固有資源である「雪椿」と「エゴマ」に着目した活性化 ⇒ H21年度から油料作物として試験栽培、オイル等関連製品の試作を行ってきた

目指すべき開拓事業の全体

○取組のねらい・実施主体間の連携等

「雪椿」・「エゴマ」を健康志向の特色ある低労力油料作物として栽培し、農商工連携により独自の搾油、製品化を試行し、永続的6次産業化を指向プロジェクト連携体と阿賀町・地域NPO・新潟雪椿研究会(新潟大学)の包括的連携

○主な取組

取組①「雪椿・エゴマの栽培・搾油」プロジェクト連携体・阿賀町

- ①耕作放棄地等での植栽地造成と栽培管理
- ②搾油施設の整備と雇用確保・人材育成6次産業化の試行



取組②「オイル関連製品の開発」プロジェクト連携体・雪椿研究会

- ①オイル加工品、食品など関連製品の試作、創出
- ②雪椿、エゴマ等地域油料資源の搾油指導、試作評価と分析



取組③「ブランド化・販路開拓」プロジェクト連携体・地域NPO

- ①花期の観光資源化と搾油施設を利用した体験滞在型観光の試行
- ②オイル、関連製品の地域ブランド化と販路開拓



◆H24年度以降の展開◆

- ・プロジェクト連携体、雪椿研究会と阿賀町の連携によるオイル関連商品の商品化(H24～)
- ・阿賀町と連携体による安定した油料資源確保と搾油施設の本格稼働(H24～)
- ・連携体と地域NPOによるオイル、商品の本格展開と観光資源化、体験滞在型観光(H24～)

◆事業の目標像◆

- ・雪椿、エゴマを地域固有資源とした6次産業化による収入・雇用の確保、観光雪椿園による観光客数増
- ・耕作放棄地、放棄山林への植栽、栽培による地域高齢者の収入確保と農地、里山の保全・再生

◆実施スケジュール◆

H23年1月

奥阿賀油田プロジェクト連携体設置、プラン策定

H23年4月

実施取組①

オイル利用食品や石けんなど関連商品の試作評価

～
H24年3月

実施取組②

植栽地造成と植栽管理搾油施設の設計、整備と試験運用

H23年4月

～
H24年3月

実施取組③

オイル、商品の販路開拓と雪椿体験プログラムの開発、試行

H24年3月

活動の取り纏めと次年度以降の活動への反映

H24年4月

本格展開に向けた調整条件整備(6次産業化)

～
H24年6月

H24～H25年

・ハード整備その他の本格展開

- ①雪椿搾油施設本稼働
- ②雪椿生産販売の中核となる法人の設立
- ③雪椿園アクセス整備